

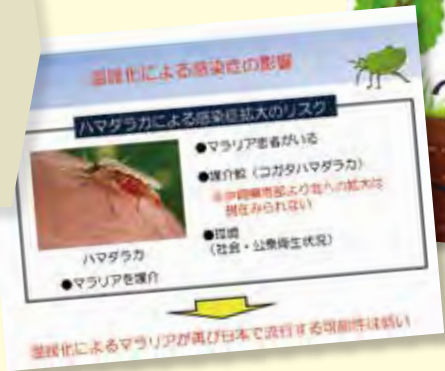
センター公式YouTube

地球温暖化防止啓発動画を10月中旬公開予定!

啓発動画

「大阪の昆虫たちのいま・むかし」

温暖化の影響が、昆虫をはじめとする生き物たちにどのような影響をあたえ、将来どのような問題が起こるのか、等について解説をしていただきます!



センター公式SNSもぜひチェック!



センター公式 YouTube



@osk_ondancenter



@osk.ondancenter



@osk_ondancenter

2022年9月・12月 大阪府民の森 ちはや園地 イベント情報

イベント担当／（一財）大阪府みどり公社 森林緑地チーム
TEL.06-6266-1038 FAX.06-6266-8665 mail:ryokka@osaka-midori.jp

野鳥観察会

初心者のための野鳥観察入門! 双眼鏡の使い方から始めます!

【期間】9月19日(月・祝)

【時間】10:00～12:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】500円

【定員】30名

【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。

星空観察会

【雨天・曇天中止】

ミュージアムの星見台から宇宙の観察をしよう! 400mmの反射望遠鏡で観察できます。

【期間】10月1日(土)、22日(土)、29日(土)、
11月5日(土)、12日(土)、19日(土)、
26日(土)、2023年3月25日(土)

【時間】19:30～21:00

【料金】700円

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【持ち物】懐中電灯、暖かい服装

【申込】参加にあたっては、金剛山キャンプ場での宿泊が必要となります。観察会の参加とキャンプ場の宿泊を同時に電話にて申込み

【申込先】ちはや星と自然のミュージアム
電話：0721-74-0056

秋のプチクラフト 紅葉の葉づくり

秋のちはや園地の自然を楽しみながら、オリジナル葉(しおり)づくりを体験しましょう!

【期間】11月6日(日)

【時間】11:00～14:00

【集合】ちはや園地ピクニック広場

【料金】無料

【申込】当日、現地受付

森のおもちゃづくり

木の実などを使って、かわいい森のおもちゃをつくります。

【期間】11月13日(日)

【時間】午前の部 10:00～11:00
午後の部 13:00～14:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】500円 【定員】各20名

【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。

クリスマスリースづくり

ツルや小枝、木の実など森の素材を使って、オリジナルクリスマスリースをつくります。

【期間】11月27日(日)

【時間】午前の部 10:00～11:00
午後の部 13:00～14:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】500円 【定員】各15名

【申込】1か月前から大阪府民の森HPより申し込む。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止又は順延する場合があります。

えこっと OSAKA

ご意見・ご感想大募集!

えこっと OSAKA にご意見をお寄せください。

ご家庭や会社で取組んでいるエコ活動や、身近で地球温暖化防止に役立っている商品、設備、施設等ありましたら教えてください。その他、本紙の感想や取り上げてほしい特集なども、右のQRコード、または上記のアンケートフォームよりお寄せください。みなさんのご意見・ご感想お待ちしております!

ご意見はこちらから <https://goo.gl/aZVbQn>



えこっと OSAKA を購読しませんか?



継続して購読されたい方は、1期(年3回発行)送付分の切手、84円3枚を添えて、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何号分から送付をご希望かを記入のうえ、大阪府地球温暖化防止活動推進センターまで郵送にてお送りください。

●あて先 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 大阪府地球温暖化防止活動推進センター
お近くの市町村(環境担当部署)、消費生活センター、図書館、府民情報プラザなどでも配布しております。

えこっと OSAKA は、カーボンオフセット付の環境にやさしい情報紙です

本紙は1部あたり10.2gのCO₂(ライフサイクル)を排出しますが、これを大阪府域において実施された森林吸収(間伐促進型プロジェクト)で創出されたクレジットでオフセットしています。

地球にちょこつとえーこと発信!

えこっと

OSAKA

VOL.67

2022 Summer

マスコット
キャラクター
「えこたま」



みどり公社HPに
アクセス!



「えこっと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしをちょこつと(少し)だけ、えーこと(良いこと:やさしい)、エコロジカルにしよう、と、大阪言葉を交えた意味を込めています。

編集・発行／大阪府地球温暖化防止活動推進センター
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社
TEL.06-6266-1271 FAX.06-6266-8665 <http://osaka-midori.jp/>
編集協力・印刷／株式会社ウイルハーツ
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町17-1 コンパノビル 2F
TEL.06-6378-9500 FAX.06-6378-9550 <http://www.w-hearts.jp/>



リサイクル適性 A
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

「ナッジ」を活用して
スマートなエコライフを始めませんか?

普段の生活の中でできる「省エネ」、考えてみませんか?



ナッジとは

「ナッジ」(nudge:そつと後押しする)とは、人々が自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法を示す用語です。

リチャード・セイラー氏とキャス・サンステーン氏が提唱したもので、「選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予想可能な形で変える選択設計のあらゆる要素」と定義されます。



ナッジによる省エネ行動の啓発・検証

大阪府地球温暖化防止活動推進センターでは、吹田市及び大阪府と連携して、ナッジを活用した省エネ行動の啓発に取り組みました(平成30年度・令和元年度)。

この取組では、人々のエネルギー消費への関心が高まる機会のひとつと考えられる「引っ越し」のタイミングに着目し、吹田市の転入・転居者を対象に行動変容を促す情報発信(いわゆるナッジ)を行いました。また、同様の啓発を、大阪府及び府内市町村と連携して引っ越しが最も多くなる時期(3月頃から4月頃まで)に実施しています(令和元年度～)。

図1 啓発リーフレット



また、経済産業省はレジ袋有料化の前に、各省庁にあるコンビニ店舗で、店舗ごとにレジ袋に対する対応を変えるという実験を行いました。この実験は、消費者にレジ袋の要否に応じて「申告カード」又は「辞退カード」を提示してもらい、店舗ごとに異なるタイプのカードを設定して、消費者に対するどのような働きかけに効果が見込まれるかを検証す

図2 レジ袋の対応とカードの組み合わせによる辞退率の変化

カードの種類	海洋ごみの写真を付したカード	諸外国における規制状況を付したカード	レジ袋が必要な場合の申告カード	レジ袋が不要な場合の辞退カード
レジ袋の要否	必要な場合に申告			不要な場合に申告
実施前の辞退率	24.5%	20.8%	21.8%	23.1%
1/27～1/31	28.7%	54.2%	44.1%	24.2%
2/3～2/7	65.7%	63.9%	50.2%	25.0%
2/10～2/14	74.5%	49.0%	49.7%	23.5%
終了後の辞退率	62.8%	41.6%	47.0%	25.8%

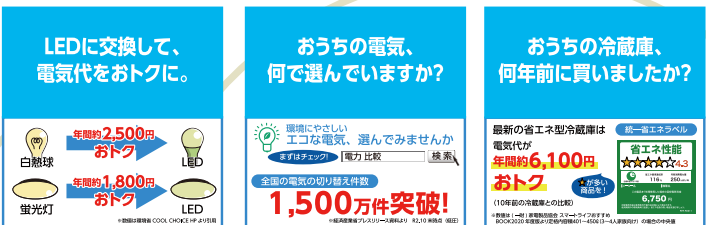
出典:「ナッジを活用した庁舎内店舗におけるレジ袋削減の試行実験の結果を取りまとめました」経済産業省



ナッジを活用した啓発用フリーツールの作成・配布

これまでの活動をふまえ、「ナッジ」を活用した省エネ行動の啓発を広く推進するため、低炭素なライフスタイルの促進に取り組まれている自治体の方をはじめとする多くのみなさまに、印刷物や掲示物の素材として自由に活用できるよう、行動科学の要素を盛り込んだ啓発用フリーツールを大阪府と連携して作成しました。

啓発用フリーツールの一例



大阪府温暖化防止活動推進センターでは、今後もより効果的に省エネ行動を促進できるツールとなるよう、啓発内容に更なる検討を加え、府内の温暖化防止活動で広く活用できるものにしていきたいと考えています。

皆さんも普段の生活の中でできる省エネ活動、考えてみませんか?



昆虫がいなくなったらどうなる？

大阪の昆虫たちの、いま・むかし

皆さんは昆虫のことをどれだけ知ってますか？チョウやバッタ、カマキリなど、最近見かけましたか？大阪科学技術センターで行われた夏休みの親子向けのイベント、「おおさかの昆虫たちの、いま・むかし」（主催：大阪府地球温暖化防止活動推進センター）の様子をレポートします。

去る8月2日に大阪科学技術センターで夏休みの親子向けに行われた、「大阪の昆虫たちの、いま・むかし」の取材に行ってきました。

座学だけではなく、野外での体験型の学習を含む充実したイベントでした。

■ 大人でも楽しめる「カマキリ博士」のお話

今回講師を務めたのは昆虫科学研究センター ISRC代表で「カマキリ博士」こと渡部宏先生。

先生は3歳の頃にカマキリが好きになり、今にいたるまでの約37年間カマキリに興味を持ち続け、カマキリの生態等について、研究を行ってきた方です。

先生は、参加した子どもたちにカマキリの摂食の様子を見せたり、高いところを好む習性を利用し、まるでなついているような動きを見せたりと、参加した子どもたちの興味や関心を高める工夫をされていました。

また、自らの研究から、カマキリは幼体時トカゲ等の天敵に遭遇すると死んだふりをするなどの習性や、幼体時の体色から成体時の体色の変化、ハチや TENTU 虫の体色の話をとおして、生物の色には様々な意味があることを教えてくれました。

先生はこのイベントを通して、昆虫、生物を「カッコいい」「かわいい」「キレイ」等の観賞的に見るのではなく、「なぜ、こんな色をしているのか、なぜこんな形なのか」と疑問をもって

見てほしいと子どもたちに伝えていました。

■ フィールドワークでわかる昆虫のいま

会場での講義を終えたのち、近くにある鞆公園で昆虫を探しに行くフィールドワークが行われました。セミの声が響き、緑あふれる公園だったため、すぐにバッタやカマキリが見つかると思っていましたが、体の色が草と同じく緑色のために探しにくく、公園に点在する草むら

を子どもたちと先生で探し回りました。

フィールドワークから戻った先生は、「実は公園で昆虫が見つかるのがかなり減ってきている」とお話しされました。

■ 地球温暖化と昆虫の関係

私たち人間を含む生態系は昆虫や植物、その他さまざまな動植物がかかわりあってできています。ある研究結果によると動植物を含め、世界で絶滅の危機に瀕している動植物100万種のうち、約半数が昆虫であるとの研究結果が発表されています。昆虫が減っているということは、私たちにどんな影響があるのでしょうか。

この減少の大きな要因として、つぎの四つの点が挙げられます。

1. 生息地の減少
2. 生息環境の変化
3. 外来種の移入や定着
4. 温暖化を含む環境の悪化

地球温暖化による昆虫の生息数の減少について、先生は「もしもカマキリがいなくなったら？」という質問を投げかけました。カマキリがいなくなることで、それを捕食するトカゲ、鳥などが減ってしまいます。バッタなど、カマキリに捕食される側の昆虫は、天敵が少なくなったとたん、爆発的に増えていき、その結果、植物の生育量と昆虫が食べる量のバランスが崩れてしまい、ニュースに見られるようなバッタの大量発生に伴う農作物への甚大な被害が起こるのです。また、チョウやミツバチなど花粉を運ぶ虫がいなくなればどうでしょうか。リンゴ、スイカ…ほとんどの果物が実をつけるためには花粉を運ぶ昆虫が必要なため、実をつけることができず枯れてしまうことになるのです。

■ 私たちはつながっている

地球温暖化をはじめとする環境の劇的な変化に、昆虫をはじめ、ほとんどの動植物がそのスピードについていけずいます。身近な公園に昆虫がいなくなり、やがてその昆虫が存在しなくなったら…ということをわかりやすく解説され、大変考えさせられるイベントでした。私たちだけではなく、昆虫にも過ごしやすい環境を取り戻す取組みを考えてみませんか。

